

「そうだけれしいんだ  
生きるよろこび たとえ胸  
の傷がいたんでも〜」。こ  
れはアニメ「アンパンマン」  
の主題歌「アンパンマンの  
マーチ」の出だしの部分で  
ある。

東日本大震災から3、4  
日後、あるラジオ番組に「ア  
ンパンマンのマーチを流し  
てください」というリクエ  
ストがあった。放送される  
やいなや避難所では、子ど  
もたちがラジオに合わせて  
大合唱。それを聞いた大人  
たちは涙し感動した。それ  
からラジオ局は、連日この  
歌を流したという。

震災後、事務所の電話が  
鳴らないので寂しいと感  
じ、ラジオをつけていた。  
私もこのアンパンマンのマ  
ーチを聞き、勇気づけられ  
た。

20年前、子どもが2歳か  
3歳のころ、妻が「アンパ  
ンマン」の主題歌を聴くと  
涙が出そうだった。私  
にとって「アンパンマン」  
はテレビで垣間見る程度、  
曲は少し聞いたことがある

ぐら이었다。歌詞をよく  
読んでみると確かに奥が深  
い。その後しばらくの間、  
携帯電話の着信メロデー  
は「アンパンマンのマーチ」  
だった。

ところで「中小企業家同

くの経営者は、そんなこと  
を考える暇なく、いろいろ  
な業務に追われてきている  
ので、答えを出すのに少な  
からず苦労する。

「アンパンマンのマーチ」  
の最後は「みんなの夢まも

## 『アンパンマン』の字ぶ

やまぎ  
八木 仁  
ひとし



長さんは社員やその家族  
の『生活』を支えているの  
で大変ですね」と言われる。  
会社が傾いた時『生活』  
の方は完ぺきとはいえな  
いだろうが、雇用保険など  
でかなり守られていると思  
を守っていくことだと思っ  
た。

先日、合同面接会に入社  
2年目の女子社員を連れて  
行った。学生から「あなた  
はなぜ入社しようと思った  
のか」と聞かれ「会社見学  
の時、こんな先輩方と共に  
働けたら楽しいだろうなと  
思ったから」と彼女は答え  
ていた。それを聞いて、畑  
から予期せぬ「芽」が出た  
と思った。

「アンパンマンのマーチ」  
を意識するようになって20  
年。「みんなの夢を守る」  
ということは一「芽」を成長  
させ、すばらしい「実」が  
なるように「会社」という  
「畑」を手入れしていくこ  
とだと考えるようになって  
きた。

友会」では会員に「理念」  
「方針」「計画」の三つで  
構成されている「経営指針  
書」をつくることを勧めて  
いる。特に事業を行う上で  
「理念」は経営者の社会に  
対する責任や、社員に対す  
る経営の基本的なあり方を  
表したもので重要と考えて  
いる。その「理念」を考え  
る過程で「自分は何のため  
に経営をしているのか？」  
という問いにぶつかる。多

るため」というフレーズで  
終わる。これを知った時、  
私にとって、先の問いの答  
えはこれだと思った。

「働く」ということには  
「生活」のためだけでなく、  
「かっこいい車に乗りたい」  
「庭のある家に住みたい」  
「子供を大学に通わせたい」  
「当社のある社員の

夢などは「家に水族館を  
作りたい」といった夢も  
上乘せされている。よく「社

ンマンのようにみんなの夢

県中小企業家同友会代表理事。神奈川県出身。民間企業に勤めた後、1985年に熱成形加工のシンデン(小山市)に入社、97年から社長。「成長戦略の根本は人」とし全社員の年齢を構成表で管理。先輩から後輩への技術伝承に力を注ぐ。小山高専地域連携協力会副会長。法政大卒。茨城県土浦市在住、55歳。